



### 山行報告

「学びあい」と書いてある登山及びハイキングは、文部科学省委託「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業です。

#### 荒船山(9月13日)「学びあい」

参加者 会員(障害者4名、健常者10名)

下仁田駅からタクシーで内山峠まで入る。途中、荒船山がよく見えるところで、写真タイムを取っていただいた。内山峠に着き、自己紹介をしてから、歩き始める。今回は、自然と親しむ子ども山登り教室に参加して、山が好きになったJちゃんも会員として初参加だ。今回は大人ばかりだけど、楽しんでもらえるだろうか？

登山口には、2箇所ほど、登山道が崩れて危険なため、登山禁止と書かれていたが、多くの人たちがすでに登っている。もしもの場合は、引き返すことにして、出発する。

この道は標高差はわずかしかないが、何度か上り下りを繰り返す。後から、「せっかく登ったのもったいない」という声が聞こえる。

後の方がにぎやかで、Jちゃんは山登り教室との違いにおどろいていたようだ。「大人も子どもと変わらないなあ」と思ったのではないだろうか？

それほど危険な道はないが、時折、両側が切れたところがあり、慎重に歩いてもらう。紅葉にはまだ早いですが、もう深い緑ではなく、色が落ち黄緑色になり始めている。時折、ハッと目を見張るほど、美しく色づいた葉もあった。

2箇所ほど、崩れた登山道を慎重に越え、荒

船山を象徴する垂直の岩壁、臙岩が見え始めてくると、登山道も岩場混じりとなってくる。しかも、急登になり、ジグザグに登る。木々の間から空が見え始めると稜線は近い。

稜線に着くと、私たちの挨拶に六根清浄と歌いながらすれ違う集団がいた。Jちゃんの友だちに、こういうグループに入って山に登った人もいるという。だけど、その友だちはどこの山に登ったのかは、全く覚えていないそう。挨拶を返してもいけないらしい。



ダイヤモンドソウ

臙岩展望台に着き、ここでお昼にする。すばらしい展望台だが、今日はいく雲が多く霞んでいて遠くが見えない。岩のへりまでいって、おそろおそろ下を覗くが、岩場を見られるところまでは近づけない。昼食後、記念写真を撮って、経塚山に向けて出発する。途中、相沢登山口への下山ルートを確認し、平坦な登山道を進む。この道は、とにかく平坦で歩きやすい。山上にいるとは思えない、ハイキング道を歩いていると、経塚山への最後の登りにさしかかった。

今まで楽をした分、厳しく感じる。山頂まであと少しというところで、Sさんの友だちに出会った。登山口でお会いした方たちだが、こんなところで会えるのは、本当に珍しいですね。



荒船山(経塚山)の山頂にて

経塚山の山頂で記念写真を撮って、下山にかかる。相沢登山口への分岐で少し休み、急な下山道を下っていく。最初は階段になっていて、ガードレールまでであった。左手には、臙岩の垂直の岩壁が見える。下山路で、タマゴタケを見つけた。誰かもらってくれる人がいるのではと持ち帰ったが、地元の人もこのキノコを知らず、残念ながらゴミ箱行きとなってしまった。タマゴタケに申し訳ないことをしてしまった。

下山路をぐんぐん下り、右手の沢が近づき、

## 日ノ出山(9月21日)「学びあい」

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)  
会員外(障害者1名)

武蔵五日市の駅におり、バス停に行くと、長蛇の列ができています。あまり天気の良い予報であるが、こんなに多くの登山者がいることにおどろく。ただ、そのほとんどは、都民の森方面だった。上養沢に行く人は少なく、小さめのバスに全員座って乗ることができた。

上養沢で自己紹介をし、車道を歩く。どんよりとした空模様だが、雨はまだ降ってきていな

また遠ざかって、今度は左手の沢が近づくと、杉林が切れ始めて、林道に飛び出した。林道を歩きながら、携帯電話の通じるところに来たら、タクシーを呼んで三ツ瀬から少しでも奥に入ってもらおうことにする。



美しく美味しいタマゴタケ

岩場や難所もあり、また歩きやすい道もあり、展望台もあり、変化に富んだおもしろい山でした。

## コースタイム

内山峠(10:15)...臙岩展望台(12:05-12:45)...経塚山(13:20-13:35)...相沢登山口分岐(14:10-14:20)...相沢登山口(16:10)...三ツ瀬(16:45)

い。トイレのあるところから登山道に入る。草が伸びて、足下が狭く感じる。コケが着き、雨に濡れた非常に滑りやすい木の橋を何度か渡る。登山道の岩も濡れて、滑りやすいので、注意して登る。



山頂近くの登山道を登る

養沢鍾乳洞跡で休憩し、ここから急な階段登りが始まる。最初の直登部分がとにかくきつかった。周囲は霧に包まれ、空気がしっとりとしている。肌によいという声が聞こえたが、暑さにびしょり汗をかくことになった。



岩場の道を過ぎると、麻生山からの尾根に飛び出す。ここで休憩し、最後の登りを頑張る。階段をさけ、左隣にある少し緩い斜面を登る。トイレのあるところに飛び出すと、そのすぐ上が山頂だった。

まだ雨の降っていない山頂で、昼食とする。展望は全くなく、さすがに登山者は少ない。昼食を食べていると雨が降り出したので、写真を

### 飯盛山(9月28日)「学びあい」

参加者 会員(障害者5名、健常者7名)  
会員外(健常者1名)

清里駅から歩く予定だったが、車道歩きを止めてタクシーで平沢集落まで入り、時間を短縮しようという話が持ち上がり、タクシーで行くことにする。

登山口から、緩やかな山道を登っていく。ツタウルシなどがすでに紅葉していた。左手に別荘らしきものを見て、さらに登って、右側の尾根に向けてトラバースし始める。赤く色づいた実や足下のヤマラッキョウやセンブリの花が

撮って、早々に下山することにする。

来た道を引き返し、落書きされて「づるづる温泉」と書かれた大きな看板のところから、長く続く杉林を下った。杉林に入ると、暗くてまるで夜のようなだった。このようなところでは、クマも生きていかれず、里に下りてしまうのだろう。

杉林の間から空が見えるようになると、林道に飛び出した。林道からさらに車道を歩いてつるつる温泉に向かう。つるつる温泉は、さすがに空いていて、ゆっくり入ることができた。

登山道には、ヤマジノホトトギスやキバナアキギリ、ツリフネソウ、キツリフネなどが咲いていたのですが、周囲が暗かったことと、雨の影響で写真を撮ることができませんでした。このところ、休日に雨になることが多いのですが、次こそ、素晴らしい天気期待したいものです。

### コースタイム

上養沢(10:05)...養沢鍾乳洞跡(10:50-11:00)...  
日ノ出山(12:10-12:50)...つるつる温泉(14:20)

楽しませてくれる。



見晴の良い尾根に出ると、そこが平沢牧場だった。あまり牧場という雰囲気はなかったが、ここからは大きな樹木がなくなり、展望のすばらしい尾根を登る。今日は、残念ながら八ヶ岳も南アルプスも雲の中で見えないが、麓の風景

と、足下の花が楽しませてくれる。マツムシソウやオヤマリンドウが咲く。濃いピンク色のフウソウは、アサマフウロだろうか？ シモツケも咲き、瑞々しいまっかな実をたわわに付けた樹木もあった。



センブリ

行く手には、目指す飯盛山が間近に迫ってきた。山頂に立つ人たちの姿もはっきり見えてくる。平沢山との分岐になる広場を過ぎ、最後の階段状の道を登って山頂に立つ。残念ながら展望が得られな

かったが、記念写真を撮る。ここは風が強く寒いので、先程の分岐まで戻って昼食とする。



飯盛山山頂にて

昼食を取っていると、雲の中から赤岳が姿を出してくれた。その後、権現岳や横岳、甲斐駒、北岳なども姿を現したり消したりしていた。

昼食後は、平沢山方面に向かう。少し歩くと、先方から大人数の子どもたちが押し寄せてきた。すれ違うときに聞いたら、全員、中2で100人以上いるらしい。カメラをぶら下げている私を見て、写真を撮って欲しいという。それじゃと1枚撮る。「HPに載るけどよいかい」と聞くと、OKですとのこと。HPのアドレスを教える暇もなく、後から押されるように子ども

もたちは飯盛山に向けて歩いていった。

平沢山へ登らずにトラバースするルートがあったため、登らなくてよい人はそのままトラバースしていった。平沢山の登りは少し急だったが、山頂からは、男山と天狗山、女山、そして麓の高原野菜畑がよく見えた。



八ヶ岳を望む

分岐でトラバース組と合流し、少し滑りやすい道を緩やかに下っていく。野辺山スキー場の付近は、男山方面の展望がよかった。コガラをはじめとした野鳥たちが無数にいるところを過ぎ、平沢峠が近づくと、正面に八ヶ岳が山腹に雲の帯を巻いて、大きく現れた。シルエットではあるが、雄大な景色に出会えてよかった。

平沢峠でトイレを済ませ、車道の右脇の山道を下る。峠には獅子岩があり、よく見ると、確かにライオンの横顔にそっくりだ。

車道に出て、高原野菜畑を歩き、JR最高地点に到着する。30年前に来たときとは様相がかなり変わり、ホテルや土産物屋があった。

ここからは、小海線沿いに野辺山駅まで歩く。線路沿いにはコスモスが美しい。駅で1時間ほど待って、予定通りの列車に乗り込んだ。

#### コースタイム

平沢(10:40)...平沢牧場(11:35-11:45)...飯盛山(12:20-13:05)...平沢山(13:20-13:30)...平沢峠(14:15-14:30)...JR最高地点(15:13-15:20)...野辺山駅(15:50)

## 涸沢(10月2日~3日)

参加者 会員(障害者3名、健常者12名)

10月2日

昨晚は、新宿から高速バスで松本まで来て、村井の信州健康ランドで1泊した。今朝、健康ランドからタクシーで上高地に入る。上高地を下りると、ひんやりとして肌寒い。

さわやか信州号で来たMさんと合流し、河童橋に向かう。川霧に被われているようで、あまり見晴が良くない。しかし、河童橋に着く頃には、霧が晴れはじめ、朝日に染まった穂高連峰や焼岳が、霧の上に見えた。

梓川右岸の遊歩道を歩く。木道は霜が下りていて滑りやすい。この付近の木々も、少し色づき始めている。この標高では、濃い緑の葉を付けている期間は、3ヶ月程度しかないようだ。

明神を過ぎ、前穂北尾根を何度も見上げながら歩く。8月に来たことがもう懐かしく思い出される。徳沢から、さらに林道を横尾に向かう。ノコンギクのムラサキが美しい。

横尾では、ここまでで引き返すTさんとMIさんと出会った。屏風岩がよく見えるあたりまで、もう少し登ってみませんかと誘ったが、すでに行ったということで、そのまま私たちを見送ってくださった。

横尾大橋を渡り、樹林帯を行く。足下には、マイヅルソウやゴゼンタチバナの赤い実がたくさんなっている。日の光を受けたマイヅルソウの実は、ひときわきれいだ。

青春の思い出がいっぱい詰まった屏風岩を見上げ、沢から離れて、横尾谷の左岸側を登っていく。おかしなキノコの集団があって、Mさんに触ってもらう。帰って図鑑を見ると、ヒトヨタケのようだが、人家付近にできるキノコなので、同じ仲間の別種類かも知れない？

すばらしい天気の下に、南岳がよく見える。左手には屏風岩が、垂直に近い角度で切れ落ちている。北穂高岳も見えてきた。本谷橋の近くで、上高地を8時過ぎに出たYさんが追いついてきた。さすがにスピードが違う。

大きな石を過ぎると、本谷橋だ。ここで昼食を取り、急な登りにかかる。涸沢に入って、がれ場付近で休憩し、さらに登り続ける。行く手には前穂高岳が見えてくる。さらに進むと、奥穂高岳と涸沢も見えてくる。紅葉した木々も、次第に増えてきた。



私は、昨日横尾に泊まって先に登っているグループが小屋に入れないのでと思い、途中から一人で先に行かせてもらう。ペースを上げて、常に目は周囲に向けている。オオバタケシマランの赤い実や、チングルマの綿毛が美しい。涸沢ヒュッテに着いて、みなさんに挨拶をして、宿泊の受付をする。今日は、畳一畳に二人くらいの混雑らしいが、私たちは離れの部屋を一つ貸切で使わせていただいた。

遅れてくる人たちを迎えに行く。YさんにサポートされたMさんは、順調に登ってくる。その後のグループは、かなり疲れが出てきたようで、小屋の最後の登りで、ひと休みしてきたそう。

ヒュッテのテラスにみんなが集い、ジョッキで乾杯する。山と共に、これも大きな楽しみだ。

涸沢付近の紅葉は、5分程度だろうか？ 素晴らしい紅葉を眺めながら、ジョッキを傾けた

が、日が奥穂に隠れるとすぐに冷えてきたため、部屋に戻った。

晩ご飯を食べ、早々に床につく。夜2時半頃、外に出てみると、満天の星空だった。オリオンやカシオペア、北斗七星などがよく見え、天の川もはっきりと見分けることができた。小屋の前の温度計は、4度を指していた。

10月3日

5時からの朝食の後、外に出て日の出を待つ。それほど寒くは感じない。朝日が奥穂や涸沢岳に当たり始め、次第に下に下りてくる。紅葉した木々に日が当たり始めると、美しさは倍増する。昨日よりも、確実に紅葉は進んだ。もう6分くらいだろうか？



涸沢小屋のサラスにて

Yさんは、みんなと別れて、奥穂、前穂と縦走し、岳沢経由で上高地に下るといふ。そんなYさんを見送り、我々は8時少し前に出発する予定で、涸沢小屋まで行き、紅葉を楽しむことにする。



真っ赤なナナカマドと前穂高岳

涸沢小屋でコーヒーを飲み、みんなで記念写

真を撮る。それから、希望者で奥穂へのルートを少し上げてみる。ブルーベリーことヒメクロマメノキの実が、たくさんなっていて、美味しくいただいた。

少し上げて、北穂の東稜がよく見えるあたりで、みなさんは引き返した。私は、写真撮影のため、もう少し上げてみる。みなさんが引き返したところから、ほんの一曲がりです晴らしい紅葉と展望が待っていた。もう少し登ってもらえばよかった。

この付近の紅葉はもうピークといってよい状態だった。真っ赤に色づいたナナカマドを前景に、前穂高岳や北穂高岳、涸沢岳、常念岳などを撮影する。とにかく、素晴らしい紅葉だ。



紅葉と涸沢岳(これでまだ6分の紅葉)

涸沢ヒュッテに戻り、テント場経由で下山にかかる。このコースも、ブルーベリーの多いコースだ。視覚障害者のHさんとMさんは、サポートの確実なTUさんとAさんが引き受けてくださった。私は、霜の下りたチングルマの葉の写真や振り返って涸沢の写真を撮ったりしながら下る。

本谷橋を渡り、順調に下っていく。徳沢では昼食を食べるグループと先に進むグループに分かれるため、ここでお別れとする。ただ、先に進むグループも明神でお昼を食べていたため、明神で再度お別れとなる。明神には、カンボクの実やズミ(小梨)の実がたわわに実り、多くの人がレンズを向けていた。

上高地に着き、バスで帰るMさんと別れて、往復の予約をしていたタクシーに乗車する。予

定よりも1時間ほど早い特急に乗り込み、紅葉の涸沢を思い出しながら、松本を後にした。

10/2 上高地(6:25)...横尾(10:05-10:20)...本谷橋(11:55-12:15)...涸沢(13:55)

10/3 涸沢(7:45)...本谷橋(9:30-9:45)...横尾(10:55-11:10)...上高地(14:25)

## コースタイム

### 石鎚山(10月11日~13日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

10月11日

岡山で新幹線を降り、ディーゼルト急「しおかぜ」で高知に渡る。瀬戸大橋をはじめて渡ったが、すばらしい展望だった。

実りの秋を迎えている田んぼを見ながら伊予西条駅に到着する。ここでMさんと合流し、バスに乗車する。バスにはお遍路さんが何人が乗車していた。

石鎚山ロープウェイに乗車し、山頂成就で下車し、整備された林道のような登山道を歩く。30分ほどで石鎚山成就社に到着。石鎚山は雲の中だったが、神社にお参りなどをして、早々に休み、英気を養う。

10月12日

今朝は、すばらしい天気で明けた。石鎚山の山頂もよく見えている。

朝食を食べ、幅広い登山道を歩く。最初は下りだ。もったいないという声が出るが、標高差で100mくらい下る。下りきった八丁から登りが始まる。お試し鎖は、登りよりも下りが厳しいということなので、見送ってそのまま登る。お試し鎖を下りたところと合流したところが前社森だった。岩場の紅葉がすばらしい。

夜明峠の手前からは、石鎚山が間近に見え、すばらしい。中腹の紅葉は、赤く色づき見事だ。二の鎖、三の鎖もよく見える。写真を撮っている間に、他の人たちは先に行ったが、一の鎖を見落としたようだ。私は、一の鎖を登り、追いついた。



紅葉の美しい石鎚山

二の鎖が始まる場所にある二の鎖小屋で休憩し、ロープで結び合せて、二の鎖に取り付く。かなりの傾斜で、足場が少ないところもあって、緊張させられる。後続のみなさんには時間がかかりすぎて、迷惑をかけてしまったが、みなさん静かに待っていてくださった。



長く、傾斜の急な二の鎖を登る

二の鎖を過ぎ、三の鎖に着いたが、時間的にも無理なので、三の鎖は登らず、一般コースを登る。天狗岳の岩壁を登っているクライマーの姿が見えた。

稜線に飛び出すと、二ノ森方面がよく見えた。弥山はすぐそこだった。山頂に到着すると、ものすごい人数だった。白石旅館で一緒だったグループがこれから下るところだったので、今までいた場所を使って休憩させてもらう。天狗岳

は、すぐそこだが、ルートが厳しく、時間的にも無理なため、今回は見送る。



石鎚山山頂にて

山頂からの展望を楽しみ、下山にかかる。下りは、全て一般道を使う。左手に見える紅葉がすばらしい。二の鎖から、土小屋へのトラバース道に入る。加茂川の向こうに明日登る瓶ヶ森が雲海の上に悠然と聳えている。どっしりとした山だ。



ススキの穂と澄んだ秋の空

トラバース道から上を見上げると、紅葉がすばらしい。道も整備されていて歩きやすい。登ってくる人は、若い人が多いように感じる。東稜基部で昼食にする。東稜を下ってきた人がいたが、滑りやすかったということだった。土小屋への道は、なだらかで気持ちがよい。振り返ると石鎚山の山頂が大きく聳えていた。足下には、リンドウが青い花を開いている。

土小屋からは、登山道に行く予定で登っていたが、クマザサに被われ、道が判然としないため、時間がかかりそうなので、戻って車道に行くことにする。車の通りが多いため、注意しながら歩くが、意外とみなさん安全運転だ。

ススキのきれいなよさこい峠からは、伊吹山に登ることにする。クマザサとススキの道に登り、山頂に着くと、瓶ヶ森が正面に聳えている。

伊吹山を下り、車道に出て少し歩くとシラサ峠だった。山荘しらは、しゃれたレストラン風の建物だった。石鎚山が正面に見える立地も素晴らしい。男性、女性、それぞれ一部屋あり、風呂にも入れるので、山小屋とは違う。今日も早く休んで、明日に備えた。

10月13日

宿の方が見送りに出てください、登山道を教えてくださいましたが、良く分からず、車道に行くことにする。登山道は、キャンプ場の脇から続いていたようだ。

ジグザグに曲がっているが、何の心配もなく歩けるので、時間的には早いはずだ。子持権現山は鶏冠に似た山で登行意欲をそそられる。

瓶ヶ森登山口で朝食にする。日陰は、かなり寒い。しかし、今日は昨日以上に天気が良く、雲一つない快晴だ。石鎚山がよく見えている。登山口から約30分で男山に到着。瓶ヶ森は女山の方が高く、山頂は女山になる。ただ、男山は、岩山で男らしいというところからついたのだろう。遠く、剣山方面もよく見えている。今日は最高の展望だ。



瓶ヶ森の山頂直下から石鎚山を望む

少し下ってクマザサ帯を登ると、女山と呼ばれる瓶ヶ森に到着。さすがにすばらしい展望だ。西条市の港や瀬戸内海がよく見える。笹ヶ峰や東赤石山もよく見えている。石鎚山は、笹原の

向こうに羽を広げのように聳えている。遠くの山山は、墨絵のように幾重にも重なって連なっている。名残惜しい大展望を後に、下山にかかる。

瓶ヶ森ヒュッテは、コールタールの臭いが強く、小屋の裏側だったせいだろうか、人の気配がしなかった。ここから、東之川に下るが、今回の登山の核心部は、ここだった。急角度の斜面をジグザグに下るが、一步間違えば助からないようなところばかり。慎重に一步一步確実に下る。ようやく急な斜面を終え、尾根に出ると歩きやすい道となり、ホッと一息。しかし、両側が切れたところもあり、注意は怠れない。台ヶ森の手前で昼食とした。

台ヶ森からは、また急な斜面を下りる。先程ほどではないが、まったく息が抜けない。途中で登ってくる2パーティーと出会ったが、それ以外は人に会わない、とにかく静かな道だ。昨日とは大違いだ。

植林帯に入り、新道分岐でお昼とする。ここから、まだ所々、足場の狭いところや外傾したところがあり、気を抜かず下る。

ようやく沢も近づき、沢に下りるのかと思ったが、なかなか下りない。そうしているうちに、懐かしい昭和40年代の演歌が流れてきた。沢に下りず、ずっとトラバースしているため、ロープウェイの駅まで来てしまったのかと思ったが、音楽の主はそこに住んでいる方だったよ

## 高鈴山(10月19日)「学びあい」

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)  
会員外(健常者11名)

日立駅で全員合流し、バスで御岩神社前で下車する。御岩神社で挨拶をし、杉並木を歩き始

うだ。沢の左岸に下り立ったが、すでに右岸側は林道になっている。民家もあるので、エアリアマップに書かれた下山口は、違っているようだ。

とにかく、ここから車道を40分ほど歩き、西之川バス停に到着。何もないバス停でしたが、始発のため、バスにゆっくり乗車して帰宅の途についた。伊予西条駅から高速バスで帰るMさんと別れ、車中の人となる。車中からは、瓶ヶ森方面の山が高く聳えていた。瀬戸大橋を渡る時、西の空に巻積雲などが広がっていた。好天も今日までだろうか。ビルの谷間からは見られない広い空を眺めながら、本州に戻っていった。

## コースタイム

- 10/11 頂上成就駅(14:55)...成就社(15:20)
- 10/12 成就社(6:40)...前社森(8:05-8:15)...夜明け峠(8:40-8:50)...二の鎖小屋(9:20-9:30)...石鎚山(弥山)(10:45-11:05)...二の鎖小屋(11:40-11:45)...東稜基部(12:20-12:50)...土小屋(13:55-14:05)...よさこい峠(14:55-15:05)...シラサ峠(16:10)
- 10/13 シラサ峠(6:00)...瓶ヶ森登山口(7:15-7:45)...男山(8:15-8:25)...瓶ヶ森(女山)(8:45-9:00)...台ヶ森(10:40)...新旧道分岐(11:45-12:05)...東之川(13:40)...西之川バス停(14:20)

める。御岩神社の三本杉は茨城県の天然記念物だそう。幹の周りが8.5m程あるらしい。

ここから山道に入る。今回は、学生さんの参加が多いため、学生さん主体でサポートしてもらおう。緩やかだった道は、次第に傾斜を増してくる。開けたところに出ると、そこはロッククライミングのゲレンデだ。今日は登っている人がいないようだ。30年ほど前は、毎週10人以上はいたはずなのだが、今は静かになってし

まっている。

岩場をトラバースし、御岩山の山頂に突き上げる岩場を、みなさんにがんばって登ってもらう。終わってからのみなさんの感想は、ここがちょうど良いアクセントになったとのこと。



御岩山への岩を登る学生さん

登り着いた御岩山の山頂は広場だが、岩場の方に行くと、展望が広がる。学生さんたちの歓声が聞こえた。

ここから、少し尾根通しに歩き、通常のルート

に合流する。歩きやすい道をしばらく行くと、コンクリートの道に出る。ここを少し行ったら、御岩山の山頂だ。電波塔だろうか、大きな塔が立っている。山頂には、テラスのようなどころがあり、すばらしい展望が広がっていた。昨年登った奥久慈男体山も見えていた。



高鈴山の山頂直下を歩く

山頂で昼食とトイレを済ませ、長い縦走路に入っていく。コンクリートの道に戻り、四辻から山道になる。しかし、古い林道のような道で、のんびりと歩ける。

途中で、Yさんがアケビを見つけた。かなり

上の方に実があったので、学生さんたちが、木の枝を使って落としている。もう、中の美味し



高鈴山山頂にて

い実は落ちてしまっていたが、意地が勝って実を落とすことができた。他の実を食べてみた学生さんは、甘いことにおどろいていた。アケビは、このあともたくさん見つけた。10個くらい鈴なりになっているところもあった。

なだらかな道をしばらく歩くと、百体観音に到着する。観音様は、どうみても50に満たない数だった。

さらに歩くと、視界が開け、池がある。これがおむすび池だった。この付近は、助川市民の森だ。指導標に沿って、助川山方面に行く。コンクリート運搬の籠の下を通って、溝のようになって滑りやすい道を歩く。太平洋も見え始めてきた。今まで助川城址方面と書いてあったが、助川城址は、助川海防城址のことだった。ここを右手に見て、さらに日立製作所の日立工場や7&iなどを遠くに見ながら、がんばって歩き、舗装道路に足がいたくなってきた頃、ようやく日立駅に到着した。

標高差は少なかったのですが、長い道のりをお疲れさまでした。

### コースタイム

御岩神社(9:35)...御岩山(10:40-10:50)...高鈴山(11:20-12:00)...百体観音(13:20-13:30)...おむすび池(14:05-14:15)...日立駅(15:50)

## 両神山(リーダー養成コース)(11月1日~2日)

参加者 会員(健常者7名)  
会員外(健常者1名)

11月1日

西武秩父駅から小鹿野バス停でバスを乗り換え、日向大谷口駅で下車する。バスを降りたのは数人だったが、駐車場には車がかかなり止まっていた。

バス停で昼食を食べてから出発する。バス停にはカメムシが多かったが、大きいのは、Yさんが言ったとおりヨコヅナサシガメの仲間だった。

登山道は、ずっと薄川をトラバースして行く。会所で、七滝沢方面への道と分岐する。山頂に登って日帰り下りてくる人たちと、何度か行きあった。車で早朝に来て、山頂を往復した人たちだろう。

沢を何度か渡り、八海山からしばらく急な登りとなる。登りからトラバースに移り、しばらく行くと、白藤の滝への分岐が現れる。前回は、滝を見に下りたが、登りがきつく、時間がかかることから今回はパスする。さらにしばらく登ると、弘法の井戸に着いた。ここからは、少しで清滝小屋だった。

今年の7月から営業を止め、無人小屋となった。すでに、数人の人たちが奥に陣取っていた。私たちは、入口側に寝るスペースを確保した。Yさんは、ハンモックに入って寝るといふ。

小屋の中は、コンロの使用が禁止されているので、外でおでんを温めたり、ごはんを温めて食べた。ザックを軽くしようと、持ってきたアルコールをがんばって空ける。気が付いたら、いつの間にかしっかりとシュラフにくるまって寝ていた。

11月2日

3時半に起床する。空は、狭い範囲しか見えないが、くっきりとした星空が広がっている。今日も良い天気ようだ。

朝食を済ませ、予定通りの5時ちょうどに出発する。まだ暗いため、ヘッドランプを付けての登りだ。とにかくすごい急登だ。岩場が現れる頃には、空も白み、明るくなってきた。日の出の方向を見ると、雲が真っ赤に色づいていた。

急登が終わると、両神神社に到着する。ここからは、標高差はあまりないが、山頂までは時間がかかった。通行禁止になった登山道と平行して新しい登山道がある。どうみても、古い登山道の方が歩きやすいのだが、白井差小屋を締められた問題とも絡んで、歩かないようにロープが張ってある。



両神山山頂にて

山腹をトラバースし、少し登ると山頂に到着した。山頂からの展望はすばらしい。奥秩父の山々はもとより、八ヶ岳や浅間山、さらに遠く雪を抱いて真っ白になった北アルプスも望まれた。近くの赤岩尾根は、いくつものピークを連ねている。

山頂で記念写真を撮ってから、八丁峠に向けて出発する。少し歩くと、早速急な岩場に付けられた鎖が現れた。ここを順調に通過した後は、しばらくは歩きやすい道が続く。

前東岳は気づかぬうちに通り過ぎた。次の見晴の良いピークで休憩し、東岳に向かう。東岳の手前、右側には、垂直の岩壁を落とすピークが見えた。東岳に着くと、ここもすばらしい

展望だ。すぐ隣りに西岳が見えるが、東岳から八丁峠までが今回の核心部だ。とにかく鎖場の連続となる。多くの鎖場は下りだったが、全員、順調に下っていた。



こんな鎖場が十数回もある

正面から見ているため、傾斜を強く感じたためだろう。



日差しはあたたかく小春日和だった

急な登りを反対方向から来るパーティーと行き違いながら登っていく。他のパーティーは、ほとんど軽い荷物で八丁峠から日帰りで縦走が往復するようだ。こちらは、荷物が重いため、慎重に登っていく。

西岳もすばらしい展望だった。浅間山が間近に望まれた。ここからも何度かアップダウンを繰り返す、急な岩場も鎖を使って順調に下りて

いく。時折紅葉の美しいところがあったが、山頂付近はすでに終わっていたようで、ダケカンバなどは完全に葉を落としていた。

紅葉の美しい八丁峠で早いお昼とする。ここからは一般道だが、坂本発のバスの時間まで、ぎりぎりの感じだった。急な山腹をジグザグに下る。沢に下りてしばらくすると、大岩に到着した。確かに大きな垂直の岩がそそり立っていた。

ここからは、平凡な道かと思ったが、沢筋では崩れかけたところも多く、なかなか大変な道だった。バスの時間がぎりぎりの状態になったため、私は道が安定したところから早く行くことにした。ようやく車道に出て、先を急いで、昭文社の地図にある近道を行こうとするが、途中で道がなくなり、川を渡る橋もないようなので、引き返して車道に行くことにする。

せっかく速く歩いたのに、後から追いかけてきた男性陣に追い越されてしまう。すでにバスの発車時間は過ぎてしまい、バス停に着いたのは、発車時間から10分遅れた12時50分だった。

次のバスまでは3時間半もあるので、タクシーを呼んで薬師の湯に行くことにする。薬師の湯で、すっかり汗を流して、大広間でベテランお客さんのカラオケを聞きながら、無事に山行を終えたことを祝って乾杯をした。

## コースタイム

11/1 日向大谷口(12:10)... 会所(12:45)... 清滝小屋(14:50)

11/2 清滝小屋(5:00)... 両神山(6:40-7:00)... 東岳(7:50)... 西岳(9:10-9:20)... 八丁峠(10:25-10:45)... 大岩(11:35-11:45)... 坂本バス停(12:50)

## 半月山(11月8日)

参加者 会員(障害者3名、健常者13名)

会員外(健常者1名)

紅葉真っ盛りの日光駅周辺から、バスで中善寺温泉まで上がる。車窓から見る紅葉も、なかなかきれいだった。

バスを降りると、肌寒さを感じる。この秋一番の冷え込みではないだろうか？ トイレを済ませ、車道を登山口に向けて歩く。



中禅寺湖を見下ろす茶ノ木平に到着

登山口からは、急な階段が始まる。周囲の木々は、すでに葉を落としている。しばらく登って振り返ると、大きな男体山が木々の間から見えた。一度、休憩を入れて、登り着いたところが茶ノ木平だ。男体山や女峰山の展望が素晴らしい。中禅寺湖とその向こうには白根山も見えている。



茶ノ木平にて(バックは女峰山)

少し進んで、風の来ないところで、昼食にする。今日は、じっとしていると、とにかく寒い。カップラーメンで温まる。

茶ノ木平から尾根通しに登山道に行く。途中、道が分かれていてどちらが正規なのか分から

なかったが、真っ直ぐの道は半月山への車道から離れる方向に進んでいるようなので、右に曲がっている道に進む。この道で正しく、しばらく進んで車道に下り立った。ここにも展望台があったが、車道に下りる手前にあった小高いところから、中禅寺湖などがよく見えた。

車道からすぐに登りにかかる。以外に急登で、重くなった腹のせいか、足取りが重かった。ここを登ると、狸山の山頂だった。タヌキと書いてあるが、ムジナと読むらしい。ここから下って、また車道に下りる。ここには広い駐車場があった。展望も素晴らしい。



堂々と聳える男体山

この駐車場にはトイレがなく、トイレまでは1.7km車道を歩かなければならない。あきらめて、目的の半月山に向けて登りはじめる。

ところが、この登りは厳しかった。急な登りもあったが、問題はクマザサの尾根のトラバースだ。クマザサに被われて狭くなった道を、慎重に進む。左側は、クマザサに被われているが、急角度で落ち込んでいる。足を踏み外してしまったら、すぐにクマザサに掴まって止めないと大変なことになる場所が続いた。

ようやく半月山までわずかの小さなピークに着いたが、まだここからもトラバースがあった。それでも、予定より少し遅れで半月山に到着した。やっと着いた山頂だが、つるべ落としの秋の日の短さを考えて、早々に出発する。

半月山の下りは、展望が素晴らしい。正面に間近の社山を見て、その左手奥には皇海山が聳えている。そんな風景を見ながら、ゆっくりと

下った。膝を痛めたTさんも、ゆっくりだが確実に下りてくる。日は西に傾きはじめているが、15時40分過ぎに半月峠に到着。そのまま、狸窪に向けて下る。



半月山山頂にて

予定のバスに間に合わなくなったので、SさんとKさんに先に下って、タクシーを呼んでもらうことにする。途中でSさんと連絡が取れたが、タクシーは上がってきてもらえないようだ。

## 桜山(11月27日)

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)  
会員外(健常者5名)

本庄駅で電車を降り、朝日バスで鬼石まで行く。バスのフロントガラスに、雨が当たっていたが、雨はこのときだけで、それ以降は一度も降らなかった。鬼石からは、タクシー会社のシャトルバスに乗る。このシャトルバスは、少し運賃が高く、帰りに利用するかどうか迷った。

シャトルバスで着いたところは、第1駐車場だった。周囲には、カンザクラがたくさん咲いていた。ここから山頂に向けて歩くが、足の速い人なら10分で着くと教えられ、少し遠回りして行くことにする。山頂の左側の林道を歩き、途中から階段を登る。登るにつれて、カンザクラが増えてきた。それと共に、もみじの紅葉も素晴らしい。樹木の切れたところからは、晴れ

明かりのあるうちに狸窪に下り立ち、林道を歩く。しばらく歩くと暗くなってきたので、ヘッドランプをつけて歩く。半月山の上には、半月が出ていた。

先に行ったKさんから連絡があり、最初にあった食堂の方が車で迎えに来てくれるという。大丈夫だと思ったが、すでに出たということなので、ありがたくお言葉に甘え、疲れている方に乗っていただいた。お世話になった食堂に着いて、そばやビールで腹ごしらえをする。中禅寺湖発のバスに合わせて、食堂を後にした。

## コースタイム

中善寺温泉(10:30)...茶ノ木平(11:45-12:15)...  
狸山(13:25-13:30)...半月山(14:55-15:05)...狸窪(17:00)...中善寺温泉手前の食堂(17:30-18:30)...中善寺温泉(18:45)

ていたら素晴らしい展望が得られたのではないと思われるが、今回は、残念ながら曇っていて、遠くまでの視界がない。



桜山山頂にて

山頂近くのサクラと紅葉は素晴らしい。ピンク色のツバキも咲いている。今回参加した学生さんたちも、写真を撮りまくっているようだ。

山頂で記念写真を撮ってから、少し早いですが、昼食タイムとした。東屋もあり、ここも晴れていたなら、素晴らしい展望だったと思う。

山頂から尾根通しに第1駐車場まで戻る。ここがメインストリートだが、多くのカンザクラ

が楽しませてくれた。サクラの木に寄生したヤドリギが、黄色い実を付けていた。この実は、野鳥の中で最もダンディーな姿だと思われるヒレンジャクやキレンジャクが好きな実だ。



紅葉の木の下を下る

駐車場に着いたのが早かったので、シャトルバスは止めて、歩いて鬼石まで行くことにする。

コースは、大沢に下るルートとした。このコースは歩いている人が少ないようで、今までとは全く違い、倒木も多く、狭い登山道だった。このコースに入って、はじめて山に来たという雰囲気になった。

いくつもの倒木を越えて、ようやく車道に出た。みんなの足には、種類は分からないが、べたべたの種がたくさん付いていた。ここから民家の庭になっているカリンを見たり、カラスウリの実を見たりしながら、車道を歩いて鬼石のバス停に向かった。

### コースタイム

第1駐車場(10:20)...桜山(10:50-11:30)...鬼石(13:50)

刈寄山は雨のため中止させていただきました。

## 講習会報告

### 岩登り技術講習会(日和田山)(9月7日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

会員外(健常者1名)

ここ数日、天気が不安定で、今日も午前中は、降水確率20%、午後は50%で、ところにより激しく雨が降るという予報だったため、ぎりぎりまで迷ったが、決行することにする。

当日の朝には、午後の降水確率も20%になり、講習会を実施しているうちは、雨は大丈夫だろうと思った。実際に、岩トレを行っている、太陽が照りつけ、暑いくらいになってきた。

天気が不安定だったこともあったと思うが、岩場に来たパーティーは少なかったようだ。ただ、20人近い初心者の方を率いた団体があり、男岩を使っていたので、こちらは女岩中心に行った。



宙ぶらりんになったMさん

女岩南面では、通常登るルートを少し難しい方向から登ってみた。最初は苦労していたが、次第に登れる人が増えてきた。人の登り方をよく観察することが、技術力の向上につながる。

今回、日和田山がはじめての全盲のMさんは、とても筋がよい。バランスもよく、順調に登っていた。

昼食後は、西面の大ハングを他の方のロープをお借りして、トライしてみる。最後まで登

れず、みんな空中遊泳を楽しんだ。

今回も、会員外で参加して下さったMさん

## 岩登り技術講習会(日和田山)(11月22日)

参加者 会員(健常者4名)

今回は、岩トレを何度か経験している男性陣4人という小集団だったこともあり、力を消耗する前に、難しいところにチャレンジすることにした。



ハンクの下に向かうFさん

に大変お世話になり、感謝申し上げます。

まず、男岩西面のアンダーリングフェース( 級)を登り、上部は4級のクラックを登る。ここで握力をかなり使ってしまった。隣には、おばさんが軽々とバルジ( 級+)を登っている。思わず見とれてしまった。

西面を2回ほど登り、昼食後、南面のフェースを登る。ここは、気持ちよく登れるが、少し難しいルートを選んで登ったりした。

そろそろ腕が疲れてきたが、時間が早いので、女岩の南面を登ることにする。隣には、英語を話す外国人と若い女性の5人グループが、ロープにぶら下がりながら、必死に登っていた。私たちは、ここを2回ほど登って、引き揚げることにした。今回は、土曜日なのか、連休だからなのか、比較的空いていて、しっかり登れて良かった。

## その他事業報告

### 第17回ふれあいハイキング(矢切の渡し)(10月5日)「学びあい」

参加者 会員(障害者3名、健常者11名)  
会員外(健常者6名)

津々。大根鉄砲が人気でした。

勘違いなどもあり、集合は遅れたが、予定より5分早く出発することができた。

国道14号を少し東京側に戻り、弘法寺(ぐほうじ)の参道を歩く。京成線を渡り、まずは真間の継橋に到着。この継橋は、万葉集に出てくるらしい。ここを過ぎ、すぐ右手に曲がり、手児奈(てこな)霊堂に到着。手児奈伝説があるらしいが、みなさん、出店の竹細工に興味



里見公園にて

ここから、江戸川の畔に出て、上流側に歩きます。水上バイクというのでしょうか？ 一人乗りのスクーターのようなものに乗って、波しぶきを上げて走っている人たちがいました。

里見公園に着き、ここで昼食タイムとします。

オレンジや黄色の花が満開です。そこには、本来三重県以西にしかいなかったツマグロヒョウモンが飛び交っていました。温暖化の影響です。他に、モンキチョウやアオスジアゲハも見かけました。

里見公園を抜け、浄水場の脇を歩き、北総線の高架をくぐると、野菊の墓文学碑への分岐です。坂道を上がり、階段を登ると、そこに文学碑があります。今日はかなりあたたかく、汗ばむような陽気です。喉を潤し、橋を渡ってみると、そこからは江戸川や東京方面がよく見えました。

野菊の墓文学碑を後にし、野菊の小径を歩きます。土の道はやはり歩きやすいです。今日、参加者の中で最年少のYちゃんは、こういう道を歩いたことがはじめてとのこと。もっとこんな道が残っていると良いのですが。

坂川にかかる橋を渡ると、野菊の墓の一節を表した碑があります。そこを過ぎ、江戸川の土手に上がると、「日本の音風景百選」というモニュメントがあります。穴に耳を当てると、高い音から低い音まで聞こえます。人が大勢いたので、人の声の方が大きかったようです。

いよいよ矢切の渡しに到着しました。渡し船は、定員30人ということで、全員が乗れました。水上バイクの人たちも渡し船が動いているときは、スピードを落として徐行してくれます。

## 第7回ミニハイキング(ガキ大将の森)(11月9日)「学びあい」

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)

会員外(健常者5名)

勝田台駅に集合し、東洋バスに乗り英和高校前で下車する。ここから車道を歩いて、ガキ大将の森に向かう。途中、カラスウリの実が真っ赤になっているところがあった。

渡し船の料金は、大人100円ですが、今日は休日でまずまずの天気ということもあり、大繁盛のようです。



対岸に渡り、寅さん記念館で、30分休憩します。中に入った人も入らなかった人も、ゆっくりできました。ここから帝釈天に行きましたが、中に入る人はなく、そのまま柴又駅に向かいます。

途中で、金町駅まで歩く人たちと別れ、柴又駅に到着。天気に恵まれて、全員、かなり長い距離を歩くことができました。お疲れさまでした。

## コースタイム

市川駅(10:25)...手児奈霊堂(10:45-10:55)...  
里見公園(11:30-12:30)...野菊の墓文学碑  
(13:05-13:20)...寅さん記念館(14:30-15:00)  
...柴又駅(15:25)

ガキ大将の森に着くと、すでにボーイスカウトの方たちが、大勢来ていた。ボーイスカウトの方たちは、ガキ大将の森の常連なので、いろいろと教えていただく。鍋などは無料で貸していただける。薪は、一束300円だ。

子どもたちには、林の中で遊んでいてもらい、Nさんが買いそろえ、車で運んでくださった食材を、みんなで調理して豚汁を作る。



みんなで作った豚汁を食べる昼食タイム

ボーイスカウトの人たちは、パンにソーセージとキャベツ(レタス?)を挟んで、それをアルミホイルでくるみ、アルミホイルごと空の牛乳パックに入れて並べている。こうやって、牛乳パックに火を付けると、ゆっくりほどよい火加減で燃えるので、ホットドッグがちょうど良い温かさになるという。私たちも試食させていただいた。なるほど、ほとんど焦げることなく、全体がきれいに温まっていた。

みんなで作った豚汁をテーブルに運び、Nさんが持って来てくださった酢の物や、大根の皮で作ったきんぴらのようなものを盛りつけ、待ちに待った昼食タイムとなる。今日は、日もささず、かなりの冷え込みなので、豚汁は

おいしさと温かさで、最高のご馳走だった。ボーイスカウトの方から柿のプレゼントもいただいた。昼食後、みんなで皮をむいて、デザートにさせていただいた。



ガキ大将の森にて

食器類を洗い、返却して、森の中をみんなで散歩する。最後に記念写真を撮って、バス停に向かった。

ここは、バンガローもあり、宿泊もできます。身近な自然の中の施設を楽しんだ一日でした。

#### コースタイム

英和高校前(11:10) ... ガキ大将の森(11:30-13:30)...英和高校前(13:50)

### 第18回ふれあいハイキング(大福山・梅ヶ瀬溪谷)(11月30日)「学びあい」

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)  
会員外(健常者5名)

小湊鉄道の車窓から見える紅葉が、次第に深まってきた。最高の天気にも恵まれた晩秋の1日、紅葉狩りの観光客もピークを迎えたようで、車中は満員で立っている人が多かった。

養老溪谷駅も、大勢の人たちであふれかえっている。自己紹介を済ませ、色づいたモミジの下を歩いて大福山に向かう。

大福山まではずっと舗装道路だ。展望の良い溪谷橋や水草で水面を被われた黒川沼を過ぎ、少し休憩し、衣類調整をする。今日は、11月末とは思えないくらい、ぽかぽかの小春日和だ。

麻生原トンネルを過ぎた梅ヶ瀬溪谷との分岐には、出店がでていた。ここで少し休憩して、大福山へ向かう車道を登る。登るにつれて次第に展望も広がり、紅葉も美しさを増してきた。

女ヶ倉橋からはすばらしい展望を満喫する。子どもたちは、テントウムシを掴まえて楽しんでいる。この付近からのモミジはみごとに色づいて、真っ赤な色を楽しませてくれる。月崎駅への分岐を過ぎて少し行くと、駐車場に止めきれなかった車が車道の脇に止めてあった。

駐車場でトイレを済ませ、山頂に向かう。途中、カエデの木にぶら下がっていた実がなんだったのか、みんな不思議そうに見ていた。



大福山展望台にて

階段を登ると大福山の展望台に着く。大勢いたが、空いた場所を見つけて座り、昼食タイムとする。Fさんがサンタの帽子をかぶり、チョコレートなどをみんなに配ってくださった。他のグループの人たちはうらやましそうに見ていた。

展望台に登ると、遠くの高層ビルとその手前の海が見えた。双眼鏡を使うと、アクアラインや海を行き交う船も見えた。反対側の山々の紅葉も俯瞰できて、すばらしい展望だった。

ここから少し車道を行って、梅ヶ瀬溪谷に下る山道に入る。今までの車道とは全く違い、滑りやすく慎重に下る。しかし、紅葉は下るにつれて色合いが増し、きれいになってくる。

梅ヶ瀬溪谷に下り立ち時間を見ると、日高邸跡まで行く時間がないので、そのまま溪谷を下ることにする。何度も飛び石づたいに沢を渡り、

河原を下っていく。途中で素晴らしい紅葉を見上げることができた。子どもたちは、洞窟が現れることを楽しみにしている。



梅ヶ瀬溪谷の紅葉

上空が開けてくると林道が近づいた証拠。それでも何度か河原を歩き、ようやく林道に到着した。ここでトイレを済ませ、駅に向かう。子どもたちは、なぜぞを出して喜んでいる。

行きと少しルートを変更し、宝衛橋経由で駅に向かう。宝衛橋に着いた時、ちょうどカワセミを発見した。遠くではっきり見えないが、何人かの方が飛んだところを見ることができた。

快晴の秋の一日を、紅葉と展望、溪谷歩き、そして最後にカワセミを楽しんで過ごすことができました。

#### コースタイム

養老溪谷駅(10:45) ... 大福山展望台(12:35-13:25) ... 梅ヶ瀬溪谷(14:25-14:30) ... 林道(15:40-15:45) ... 養老溪谷駅(16:25)

**第5回やちよ市民活動サポートセンターまつり「こんにちわ ふれあいまつり」(11月3日)**  
参加者 会員(視覚障害者3名 健常者13名)

今年も千葉県八千代市の市民活動グループを応援している「市民活動サポートセンター」が主催した、「第5回こんにちわ ふれあい



まつり」に山仲間アルプも参加しました。

今回は、昨年と同様、山仲間アルプの活動紹介として、模造紙で活動の様子を説明したり、活動の様子を四季にまとめたアルバムで紹介したりしました。また、今年は、ノートパソコンを持ち込み、登山の様子をビデオで紹介しました。市長も訪れてくださったのですが、ご自身もかつて沢登りの経験があるということで、沢

登りのビデオを楽しんでいらっしゃいました。

このような催しに参加できたことを、八千代市市民活動サポートセンターに感謝すると共に、山仲間アルプの展示に駆けつけてくださった会員のみなさま、どうもありがとうございました。また、山仲間アルプのブースを訪れていただいたみなさまに感謝いたします。

### 徳本峠から蝶ヶ岳

平成20年8月1日～3日は、良い天気にもまれた山行であった。一日目は、気の合ったアホな仲間と島々～徳本峠まで。2日目は、一人静かに徳本峠～大滝山～蝶ヶ岳まで尾根歩き、そして蝶ヶ岳で子供登山教室に合流。3日目は、蝶ヶ岳子供登山教室の皆さんと共に上高地に下山。それぞれに違った味のある山歩きであった。

前夜に蒸し暑い新宿より夜行バスに乗り込み、まだ夜が明けきらない早朝、ひんやりとした新島々駅に着いた。島々の林道ゲートまでタクシーで入り、眠い目をこすりながら歩いた。歩くほどに身体は温まり目覚めて行った。小鳥のさえずり、沢音を聴きながら、島々川の右岸の登山道に入った。道は島々川の右岸を岩魚留め小屋まで、ゆるゆると高度をあげていた。

後日、徳本の小屋で別れた友より、和菓子が届いた。その包み紙に次のような文章があった。「バスが通じる前は、上高地の道はすべてこの徳本峠であつた。果てしない道を終えて岩魚留めあたりから峠に差し掛かった。つづら折りの割合に、100m毎に打った杭を張り合いに重いリュックを背に登った苦労は大変だったが、真っ白い穂高の鋭鋒をまのあたりに見た興奮は、これが山の魅力だと思った。」徳本峠を登り切った眼前に岩峰が姿を現した。

翌早朝、霞沢岳に向かう仲間と別れ、暖かいもてなしの徳本小屋を後に、樹林の尾根道に入ってしまった。樹林帯のかい間から穂高が見え隠れする、嬉しさでピッチが上がった。槍見台の檜に登り、槍から穂高を眺め朝食をとり、暖かな朝日を受けながら単独をいい事に朝寝をした。長い樹林帯を抜け大滝山への最後の急登に差し掛かると、東から南の方角が一気に開けた。南アルプス、八ヶ岳、富士山が遠望できた。斜面には高山植物の花、花、花。「ううん～、よか～」と唸るばかりであった。

大滝山の小屋を過ぎると、前方後方の展望が広がっていた。友人が行った霞沢岳、焼岳、穂高岳、蝶ヶ岳、槍ヶ岳、常念岳、そして子供登山一行が登っているであろう長堀から蝶への稜線。「よか～、ヨカ～、よか～」の三連発であった。ここで、ラーメンの昼食をとり、食後の昼寝をむさぼった。蝶ヶ岳めざして稜線散歩の最後の行程に入った。絶景を堪能しながら蝶ヶ岳の登りにかかると、お花畑が広がっていた。お花畑の中でコーヒータイム、そして今は思い出となった来し方を目を閉じ反芻した。そしてまた、気持ちよく眠りに落ちた。

最後の急登を上ると大展望の蝶ヶ岳であった。多くの登山者の喜びの顔・顔・顔。その中に子供達の輝く笑顔があった。

記：M・H

## アルプに参加した三年間の感想

一番思い出に残っているのは燕岳です。山小屋で部屋の窓を開けたら、雲が部屋に入って来て、寝ながら雲を触れた事です。夏なのにとても寒くて、ストーブがついていてびっくりしました。標高が高いから少し息が苦しくなりました。富士山はむりかなと思いました。行きの登りの途中でスイカを食べました。おいしかったです。

アルプのみんなで山に登ると熊に襲われる事がないので心配ないです。これからは高い山にも登りたいです。会のみなさん、これからもよろしくお願いします。

記：Y . S

## 各種連絡事項

### 一歩くん基金の助成金をいただきました

NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)が、実施している一歩くん基金から助成金をいただきました。今回の一歩くん基金は、団体の広報を支援するという目的で行われましたが、山仲間アルプは、活動映写会を実施するためのビデオカメラ購入費、

ビデオ編集ソフト、映写会会場費、ビデオ編集人件費などとして10万円をいただくことができました。

早速、ビデオカメラと編集ソフトを購入し、登山やハイキングのビデオ撮影を進めています。

### 山仲間アルプの活動紹介映写会を開催します

上記一歩くん基金の助成金をいただけることになったこともあり、山仲間アルプの活動紹介映写会を実施します。日時や場所などは追って連絡しますが、3月に八千代市内で実施する

ことを予定しています。日時が決まりましたら、会場の準備や受付など、みなさまのご協力をお願いいたします。

### 各種広報誌などに紹介されました

9月以降、以下の広報誌に山仲間アルプのことが紹介されました。

一つは、横浜市にある神奈川県ライトセンターが発行する「かけはし」という交流誌です。交流誌のため、個人的なことも書いて欲しいとの要請だったため、理事長の山を始めるきっかけなどを書かせていただきました。

また、Pal\*system が運営するセカンドリーグが発行している「のんびる」という冊子に、忘年山行の弘法山に参加しませんかという参

加募集記事を掲載していただきました。カラー写真付きの立派な冊子です。

千葉県のNPO活動啓発ビデオに山仲間アルプの活動も紹介されることになりました。今回、受託したNPO法人いちかわ市民文化ネットワークが現在、ビデオを作成中です。山仲間アルプのビデオは、過去に撮影したものから選択してまとめていただきます。来年2月頃には、「ちばNPO月間 2009」などで広く公開されます。機会がありましたら、ぜひご覧ください。

## 「千葉市民活動フェア in きぼーる」に参加します

来年3月14日、15日と二日間、千葉市中央区のきぼーるで、「千葉市民活動フェア in きぼーる」が開催されます。今年も、パネル展示

などで参加しますので、ぜひご協力お願いいたします。

### 今後の計画

1月以降の詳細計画を作成しました。新年最初の鋸山、恒例の湯の丸高原、奥多摩の浅間嶺、ヒルが増えたため冬に計画した塔ノ岳、雪山の

黒斑山など計画しています。ふるってご参加ください。

### 会員情報

新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく願います。(敬称略)また、2名の方が賛助員になってくださいました。

正会員

2名

### 編集後記

#### ・理事長のつぶやき

今年はみなさまにとってどんな年だったでしょうか？ 山仲間アルプにとって今年は、いろんな形で広報していただき、多くの方に新たに会員として加わっていただきました。このまま中止などがなく年末を迎えると、全体としても過去最多の参加者数(のべ660人)ですが、新

人の方の参加も115回を数え、過去最多で、活気がでてきたように感じました。現在、リーダーの育成など多くの課題を抱えていますが、ぜひ解決していきたいと思っておりますので、来年以降も引き続きご協力、よろしく願います。

#### ・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても

